

議会だより

No.169 (R2.2.5発行)

令和元年 第4回浦臼町議会定例会 一般質問

第4回定例会は、12月10日に開催され、7議員から一般質問がありましたので、内容を要約し報告します。



親しまれる議会だよりを目指します。

JR跡地利用について



東藤議員

Q 質問

廃線後のJR跡地利用についての説明がない。鉄道用地への除草剤の散布やのり面の草刈りは廃線後もJRで実施するのか。また、今後地権者との協議はあるのか。

A 総務課長答弁

隣町では農地利用を検討しているが、令和2年度の鉄道設備手許費用等の調査完了後、住民の意見を聞きながら関係機関とも連携し検討していきたい。

Q 再質問

町の考えは。

A 町長答弁

JRから町に無償譲渡されるまでは、JRが今まで通り除草剤、草刈りを実施し、譲渡後は同じように町もしている。かなければならないと思っている。

令和2年中には敷地近隣の農地対象者に話をして、意見を聞いていきたい。



静山議員

札沼線廃止後の協議

Q 質問

令和2年5月6日に札沼線が廃線となるが、廃線までに行うイベントはあるか。また廃線後の土地等利用の協議はどのような状況か。

A 総務課長答弁

イベントについては、札沼線ラベルの記念ワインの販売、JR北海道と連携して12月1日から札沼線記念入場券の発売などを実施している。

また、検討中の企画として、

町内の店舗で買い物や食事をした方に札沼線オリジナル缶バッジの配付、エキアカリの開催などを考えている。

廃線後の活用に関する協議は、廃線後から譲渡までの約

2年間で、最低限必要な協議を進めたいと考えている。

広域連携の今後

Q 質問

人口減少や少子高齢化が進むなか、限られた人員や財源を考えると、広域連携による効率的な事務処理は地方公共団体にとって重要な手段となる。将来の連携のありかたは。

A 総務課長答弁

人口減少が加速的に進むなか、今まで以上に広域で連携し、効率的な事務処理の遂行が必要となり、新たな分野でも広域連携事業が必要となることが想定される。

また、共同処理施設の老朽化対策や人材不足による雇用の確保などさまざまな課題もあり、将来的には奈井江・浦臼町学校給食組合のように、統廃合も出てくるかと思う。

広域行政の重要性は一層高まっていくと思うので、今後の中長期的な視点で検証しながら、タイミングを逃さず広域連携事務について近隣自治体と協議していきたい。

奈井江浦臼連携の火葬場の今後は。

A 町長答弁

施設の老朽化を考えると、砂川市との連携の考えを強く持っている。

新教育長に問う

Q 質問

我が町の将来を担う子供たちの教育行政を背負うことになるが、それに向けた思いを表明していただきたい。

A 教育長答弁

教育に関する分野は、学校教育はもとより、スポーツや文化・芸術、生涯学習など幅広いものがある。将来を担う子供たちの育成という観点からも、特に義務教育の果たす役割は極めて大きく、その環境づくりを進めることが私に課せられた使命であると考えている。

教育行政は、一般行政同様、基本的に地方自治の本旨に沿って行われる。特に義務教育では、全国的に一定の教育水準の維持向上を図るために、国・道・町の役割分担がされ、

財政的な裏づけがなければ町独自の特色ある取組みがしにくくなっている。

そのなかで、前教育長が導入した地域とともにある学校を理念とし、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）やALITの通年配置、国や道教委も強く推進しているICT環境の整備を改善して継続的に推進し、学校、教職員の理解と協力を得ながら、ふるさと教育などの特色ある教育活動の推進、子供たちの学力向上、健全育成等を図りたいと考えている。

また、幼児から高齢者に至るまで、各世代の学習ニーズに即した講座、教室の開催や図書室機能の強化に取り組み、さらに本町の重要な文化財の適正な管理、郷土史料館の整備にも努めていきたい。



高田議員

浦臼町における地域医療構想について

Q 質問

町の地域医療構想をどのように維持し続けるのか。近隣の医療機関との連携をどう図るのか伺う。

A くらし応援課長答弁

急性期機能を有する医療機関との連携は重要であり、医療圏域での協力体制を引き続き継続していく。

二つの診療所は平成28年度から5年間、2医療法人が運営しているが、令和3年度からの更新に向け指定管理者の公募を行っているところで、令和2年2月末の公募終了までに応募が来るよう努める。

Q 再質問

現在、診療日の変動的な運用が行われているが、週5日の診療体制の契約について明記されていたか。また、契約

内容の見直しは行うのか。

現在の契約に週5日は明記されている。2月末までは当初示した条件で公募し、応募がなければ検討する。



柴田議員

今後の収支予測とグラウンドデザイン事業について

Q 質問

①本町の将来の収支予測は。
②グラウンドデザイン事業の進捗状況と、ハード面はどこまでの事業総額と考えているのか。

③札沼線の跡地返還後の利用のための協議会の活動状況と進捗状況は。
④②、③の事業は重複する部分があり、担当課が違うのは効率が悪くはないか。

A 総務課長答弁

①これまでの緊縮財政の成果があり、各指標は改善に向か

っている。向こう5年間の財政推計を試算すると、これまでと同様に基金からの繰り入れを行う状況にある。

今後、必要性や優先度、効果などを検証し、事業費の平準化や圧縮に努め、引き続き健全な財政運営に努めていきたい。

A 産業振興課長答弁

②ソフト事業としてツアーや、フォーラムを開催した。7月には農家説明会を行い、今後の事業に参加していただける方を募集した。

今後の事業としては、スノーシューツアーや札幌地下歩行空間でのPR・販売会を実施し、事業の推進主体となるまちづくり会社（仮）設立の準備を予定している。

ハード事業は、昨年度作成した案に基づき、今後の維持経費のことも考え、道の駅を単体で直す案と、温泉側に全部機能を集約する案を示した中で今後進めていきたい。
④互いに情報共有しながら検討しており、今後も連携して事業を推進していく。

高齢者世帯等除雪費助成事業について

Q 質問

平成28年度より実施している高齢者世帯等除雪費助成事業の現在の状況と、どのような見直しをしたのか、申請手続並びに助成方法について伺う。

社協が行う除雪応援事業との連携はとれているのか。

A 長寿福祉課長答弁

昨年度までは居住する家屋の屋根の雪おろし、及び窓の明かりとりのための除雪を対象としたが、今年度から店舗兼住宅、車庫、物置、家屋前、車庫前の除排雪も対象に加え、町民税課税世帯でも該当していれば事業の対象とした。

見直しにより対象世帯は193世帯となり、現在の登録申請世帯数は63件となっている。また、把握している請負事業者に対しても説明を実施している。

助成の手続きについては、事業者との契約を対象者自身が行い、除雪後、3月31日までに契約書と領収書の写し、作業前後の写真を町に提出し

て審査した後、決定通知書を送付、指定口座に入金する流れとなっている。

社協の有償ボランティア及び生活支援事業で行う除雪サービスもあるが、住民が各事業を使い分けできるように、相談された方には説明している。



野崎議員

中央バス奈井江駅発着と町営バスの接続について

Q 質 問

町内の砂川市立病院受診者が帰宅の際、病院前発の中央バスが遅延したため町営バスとの乗り継ぎに間に合わないことが発生している。タクシーでの帰宅を余儀なくされる事があるので町営バスで帰宅できるよう対処できないか。長時間待つことは疾病を抱えた人には大変なエネルギーが必要。運行事業者とすつか

りと協議を行ってほしい。

A 総務課長答弁

13時発の浦臼行き町営バスを10分程度遅らせるなど、運行事業者と協議を行い調整を図っていききたい。

町営バスの増便を

Q 質 問

公共交通に依存する住民、高齢者は増えている。町営バスの奈井江発浦臼行きの午後の便は13時から16時10分までの間3時間10分の空きがある。増便できないか。

A 総務課長答弁

砂川市立病院に向かうダイヤとして、朝の便は浦臼駅発7時1分の便に乗車すると8時15分の受付に合う。午後の便も時間は限られているが、受診者の足は確保できていると認識している。

Q 再質問

利用者の声に応え、町営バスを有効に活用するためにも改善できないか。

A 総務課長再答弁

事業者も業務を掛け持ちしながら運行している。また、便数を動かすことで、今利用

している方が不便になることもあり、決めかねる所がある。乗り継ぎができる形で時間設定しているので、公共機関の時間帯を見ながら、病院の予約をしていたらいい。



折坂議員

JR廃線に伴う代替バス及び地域公共交通の充実

Q 質 問

①JR現行6便が代替バスでは5便に減らされている。月形から当別間は現行より2便増え、早朝便を充実させている。浦臼月形間も現行並みの便数にはできないか。

②高校への通学の利便性を確保し、子供たちの進学の選択肢を狭めないよう配慮しなければならぬと考えるが。

③タクシーの土日休みの対策として、ビジコー本社でもタクシー利用券を使用可能にしてはどうか。

④デマンドタクシーが中心の変更案だが、全世代に対してもっと丁寧な説明が必要では。車に乗れない人に対して、一般タクシーの半額補助の施策などが必要では。

⑤JRの補償金でバスを購入するのなら、砂川便を増設しては。まずはニーズ調査を。

⑥美唄線のデマンドの本数を増やし、登録の仕方を簡素化して利用促進を図って。

A 総務課長答弁

①月形高校への通学を第一に考え、沿線自治体と調整しているのが現状よりも利便性は向上している。

②浦臼中学校の進路指導の先生に代替バスの運行ダイヤ等について説明し、引き続き通学できることを伝えている。

③ビジコー本社でのタクシー利用券は、事業者との協議で使用可能と回答があった。

④デマンドタクシーの利用方法については再度わかりやすく周知する。高齢者へはタクシー利用券を交付し、支援を行っているため、一般タクシーの半額助成を実施する考えはない。

⑤砂川市立病院への砂川便の

創設は、運転手の確保や路線運行に必要な経費負担の問題など課題が多く、難しい。⑥初年度は必要最小限の便数でスタートし、利用実績を勘案しながら次年度以降の運行便数を検討する。

市街地のにぎわい創出のために

Q 質 問

多様な人材確保、地方の担い手不足解消のためにUIJTターンを促す施策として、起業する個人や団体に初期投資に対する補助、空き家を活用するための改修費などの支援などを考えては。

また、新しく起業しようとする人や移住を考えている人、職場がある浦臼町に住んでみようと思う人の背中を後押しするための家賃補助はどうか。

A 総務課長答弁

現在、町内の商工業者や本町で起業しようとする個人の補助制度として、平成28年度から中小企業振興条例を施行している。

また、平成30年度から施行の企業立地促進条例では、本

年度1件の実績があり、事業者への支援を行っている。移住定住策としては、定住促進住宅取得応援条例により、新築または中古住宅の取得に対して助成を行っている。家賃補助制度については今のところ考えていない。

減量化施設のリスク管理について

Q 質問

①施設の管理責任は町が担うもの。搬入物の状態、重量のチェックは誰が行うのか。
②2棟はそれぞれ食肉加工施設から出た残さと加工施設を経由しないものに分けると議会で説明があったが実態はどうか。

③野生動物が持つ動物由来感染症の予防の観点から、作業には長靴、ゴーグルなどを着用し、重機は専用にするべきだと考えるが実態はどうか。

A 産業振興課長答弁

①搬入時の書類及び残さの中身は、現場で受託事業者が確認し、重量は加工施設にて指定管理者が行っている。内容等に疑義が生じた場合に産業

振興課へ連絡いただく。

②加工施設を経由しない施設について、搬入実績がなく、菌が休眠状態となってしまうので、菌の活性状況を維持するため、6回程度残さを搬入した。

③必要に応じて長靴や手袋等を着用している。重機は町内の配置状況を確認し、4月以降専用化していく予定。



牧島議員

JR 札沼線廃線の代替交通に関する住民説明会を終えて何が課題か伺いたい

Q 質問

①説明会での意見・希望は。
②町づくり委員会、地域公共交通会議での意見は。
③単年度試算として、支援額と不足額は。
④停車場と待合所が必要と考

A 総務課長答弁

①登録番号での予約の徹底、タクシー券をビジコー本社で使えるようにして欲しい、土日運行時の奈井江線の料金が高い、長期的な路線の維持に関する要望等。

②特に意見はなく承認された。
③月形間の運行に関するJRからの支援額は年間583万3千円、不足額は48万2千円となる。

④晩生内線のバス停を活用し、現状ある待合所を活用する。

Q 再質問

先に町民に資料を渡し、懇談できるようにする必要があるので。また、晩生内にはログハウスの待合所があるが、月形方面の待合所にはない。各停車場に待合所の設置が大事ではないか。

A 総務課長再答弁

平成25年に地域公共交通を運行した時は、各老人クラブ、みどり学園へ工夫して伝えてきた経過がある。多くの人に説明をする機会を作る。

待合所がないところが何か所かあるが、今のところ要望はなく、要望があれば今後検討したい。

Q 再々質問

数字を改めて積み上げると、町の財源を割当てなければならぬのでは。待合所は晩生内だけではなく、鶴沼も含めて検討に値すると思うが。

A 町長答弁

赤字部分は基金条例を作り、やりくりをする。待合所は冬期間は特に必要だという認識でいる。

河川敷の管理について

Q 質問

札の内川をはじめ、町内多くの河川の立木伐採を求める。

A 建設課長答弁

町で要望している黄白内川の国道より下流部の伐木・河床掘削が実施されていないことから、関係機関に要望するとともに、河川の現状把握を十分に行っていききたい。

Q 再質問

札の内川では護岸ブロックとの境目に直径30cmからのアカシヤが林立していて、コンクリート構築物に根をはり、いずれは割れると見ている。上級機関に町として要請しているが、多

くの場所がそういう状態になっているため、早期の伐採を求めた方がいいのでは。

A 建設課長答弁

現状は十分確認している。

電気自転車・車いすの補助に向けて

Q 質問

国が電気自転車・車いすの貸し出しを行う自治体に対して補助を進めようとしている。免許返納が進むなか、本町でぜひ取り組んでいただきたい。

A 総務課長答弁

国は高齢者向けの安全な移動手段とされる電気自転車や電動車いす購入支援などの検討を進めるとしている。

近年、高齢者の外出を手助けしているシニアカーは、電動車いすの区分に含まれ、介護保険制度を利用して要介護2以上であれば1割負担でレンタルすることができる。

また、電動車いすについては、障がい者手帳を所持する方は補装具として給付を受けることができる。今後、補助要綱等が示された段階で検討していきたい。



Q再質問

現在の補助の対象外の方が電動車いすや電動自転車希望したときに、利用料をもらい貸し出す仕組みを考えてはどうか。

A町長答弁

高齢者対策は様々な部分で必要になっている。一般の高齢者もこうした乗り物に乗りながら外出することが健康にも繋がるため、ぜひ検討したい。

審議された事件と結果

条例等の審議と結果

- ◆ 浦臼町札沼線代替輸送事業等基金条例の制定について — 可決 —
- ◆ 浦臼町第2号会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定について — 可決 —
- ◆ 浦臼町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当および費用弁償に関する条例の制定について — 可決 —
- ◆ 職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について — 可決 —
- ◆ 職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について — 可決 —
- ◆ 浦臼町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について — 可決 —
- ◆ 浦臼町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について — 可決 —
- ◆ 浦臼町ジビエ処理加工センター設置及び管理条例の一部を改正する条例について — 可決 —
- ◆ 浦臼町下水道条例の一部を改正する条例について — 可決 —
- ◆ 浦臼町選挙管理委員会及び同補充員の選挙について
任期満了により選挙が行われ、4名の選挙管理委員、4名の選挙管理委員補充員が当選しました。
- ◆ 財産の取得について（X線透視撮影システム） — 可決 —

第5回浦臼町議会臨時会

〔11月25日開催〕

- ◆ 浦臼町長等の給与等に関する条例の一部を改正する条例について — 可決 —
- ◆ 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について — 可決 —

平成30年度各会計歳入歳出決算を認定

11月18日・11月19日の2日間、決算審査特別委員会が開催され、平成30年度浦臼町各会計歳入歳出決算について原案のとおり認定すべきものと決定しました。
各会計の決算状況については下記の通りとなっています。



平成30年度浦臼町各会計決算を認定

(単位：円)

区分 会計名	決算額		差引額	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支額	
	歳入	歳出				
一般会計	3,616,775,983	3,424,975,185	191,800,798	2,992,000	188,808,798	
特別会計	国民健康保険	197,249,180	184,535,393	12,713,787	0	12,713,787
	後期高齢者医療	45,390,602	44,723,077	667,525	0	667,525
	下水道事業	74,575,794	73,453,062	1,122,732	0	1,122,732

◎令和元年度予算の補正されたもの

会計名 (補正番号)	補正後の予算額 (補正額)	補正された主なもの	
一般会計 (第6号)	37億9604万6000円 (261万5000円)	減量化施設業務委託料 135万円 職員手当等 102万6000円	
一般会計 (第7号)	42億8745万円 (4億9140万4000円)	札沼線代替輸送事業等基金積立金 4億9866万円 県プラスチック資源循環購入費 △1420万2000円	
特別会計	国民健康保険 (第2号)	1億4113万8000円 (3万8000円)	職員手当等 3万8000円
	後期高齢者医療 (第1号)	4951万5000円 (1万5000円)	職員手当等 1万5000円
	下水道事業 (第1号)	8528万5000円 (8万5000円)	職員手当等 8万5000円

◎令和元年度予算の補正されたもの(専決事項)

会計名 (補正番号)	補正後の予算額 (補正額)	補正された主なもの
一般会計 (第5号)	37億9343万1000円 (110万円)	浦臼小学校樹木伐採工事 110万円

奈井江・浦臼町
議会議員交流会

11月21日、奈井江町議会との交流会を行い、空知総合振興局局長 青木誠雄氏から空知管内の地方創生について講演を聞き、その後意見交換を行いました。



空知町村議会
議長会表彰

空知町村議会議長会から、長きにわたり地方自治の振興や町政発展に貢献された議員に表彰状が授与され、第4回定例会開会前に伝達されました。

副議長として4年以上在職
小松 正年議員



総務産業常任委員会報告

〈調査日10月11日、11月8日〉

『農作物の作況状況』

本町の基幹産業の水稲は、5月後半に高温障害、7月には雨不足となり、水稲だけではなく農作物全般に影響が見られた。その後は平年並みに推移し、順調に収穫期を迎えたが、米の品質の低下が見られ、2500俵あまりが共計外となった。

ほかの作物では対前年より収量は増え、なかでもソバと加工用ぶどうは良好だった。今後、近年の温暖化傾向に向けた新たな技術による対策が必要であり、普及センターと連携を密としタイムリーな情報提供を望む。

『町内実施事業等の進捗状況』

●ひばり団地(C・D棟)建築工事等

1棟4戸平屋建て、延床面積323・88㎡、無落雪設計で、風除室が張り出しており夏季の日差しが入りにくい印象を受けた。近年ゲリラ豪雨が頻発しており、屋根排水の



日頃の管理に注意されたい。

●食肉加工施設建築工事(減量化施設含む)
町が管理する減量化施設は、12月から3月までの期間、反転作業を含めた管理を委託する。しかし、照明設備及び換気設備、作業機洗浄の備品がなく、作業安全面、衛生面において作業環境改善に向けた検討が必要と思われる。

その他、農村センター研修室改修工事、ラウネナイ川下流域護岸、中央団地外構舗装改修工事の現場状況調査も行った。

議会の流れ

◎議会運営委員会

12月3日
第4回定例会の運営について

◎全員協議会

11月8日
ジビエ処理加工センターについて

11月21日

会計年度任用職員について
11月25日

学校給食の提供について
12月10日

第4回定例会について他

◎議会広報特別委員会

1月16日
議会だより第169号編集

編集後記

昨年は平成が終わり令和がスタートし、災害の多い年でしたが、我が町は穏やかな1年だったと思います。

札沼線もいよいよ廃止となります。寂しい気持ちですが、町に新たなにぎわいが生まれたいと思います。(東藤)

委員長	野崎 敬恭
副委員長	折坂 美鈴
委員	東藤 晃義
	高田 英利